

第14回IGF（インターネット・ガバナンスフォーラム）会合の結果概要

- 日時・場所 : 2019年11月25日（月）～29日（金）ドイツ・ベルリン
- 参加者 : 政府、民間企業、学术界、市民社会等から5000人以上が参加登録。開会式には、グテーレス国連事務総長、メルケル独首相が参加しスピーチ。総務省からは山田総務審議官が参加。
- ※ IGF（インターネット・ガバナンス・フォーラム）：インターネットに関する公共政策課題について、政府、民間部門、技術・学術コミュニティ、市民社会などのマルチステークホルダーが対話を行う場。事務局は国連経済社会局（UNDESA）。資金は政府、民間企業等の拠出金で運営。

【総務省の対応の主なポイント】

- 各国ハイレベルが参加するドイツ主催イベント（閣僚朝食会、ハイレベル・リーダーズ・ミーティング）、IGFイベント（ハイレベル・パネル）及びOECD主催イベント（AIオープンフォーラム）等で、G20茨城つくば貿易・デジタル経済大臣会合及びG20大阪サミットの成果等を発信。
- 大阪トラックに関するセッションを開催して、「信頼性のある自由なデータ流通（data free flow with trust）」をはじめとした本年のG20の結果を紹介し、大阪トラックの枠組みによるデータ流通に関する議論を推進。

1. 開会式スピーチ概要

（1）グテーレス事務総長

自由でオープンかつ安全なインターネットを手の届く（affordable）条件で提供することの重要性、特に地域間・ジェンダー間等におけるデジタルディバイド解消の重要性等を指摘。また、デジタルに関する課題に対応するテック特使（Tech Envoy）を国連内に設置する意向を表明。

（2）独メルケル首相

30年前のベルリンの壁崩壊を振り返りつつ自由の重要性に言及しつつ、インターネットの分断は、世界のインフラを不安定化させ、人々が情報にアクセスする権利を奪う恐れがあると警告。グローバルなインターネットから人々が受ける恩恵を守るため、一つのインターネットの維持と、インターネットガバナンスの枠組みとしてのマルチステークホルダーアプローチの重要性を指摘。



<メルケル首相とグテーレス事務総長>

第14回IGF（インターネット・ガバナンスフォーラム）会合の結果概要

2. ハイレベル・セッション等の概要

（1）閣僚朝食会

ドイツ主催の閣僚朝食会において、我が国の「Society5.0」のコンセプトや、G20における信頼性のある自由なデータ流通（data free flow with trust）に関する議論の結果を紹介。

（2）ハイレベル・リーダーズ・ミーティング

ドイツ主催ハイレベル・リーダーズ・ミーティングにおける「データガバナンス」をテーマにしたパネルセッションにおいて、「信頼性のある自由なデータ流通」の取組事例として、日本の情報銀行の取組を紹介。

（3）ハイレベル・パネル

開会式に続くハイレベル・パネルにおいて「インターネットガバナンスの未来」をテーマにサーフ博士の司会による議論が行われ、G20の議論や「大阪トラック」の紹介を行い、「信頼性のある自由なデータ流通」実現の重要性等を指摘。

（4）オープンフォーラム「AI－原則から実装へ－」

OECD主催のAIをテーマとするフォーラムにおいて、2016年のG7高松会合において開始したAIの議論がOECDでの議論を経て、本年のG20首脳の合意に至った経緯等を紹介し、他の参加者は日本の貢献への賛意を表明。



＜ハイレベル・パネル＞

3. 大阪トラック関連セッション概要

大阪トラックを推進するため、「信頼性のある自由なデータ流通（data free flow with Trust）」の推進に焦点を当てたセッションを開催。本年のG20議長国として、“data free flow with trust”をはじめとしたG20茨城つくば貿易・デジタル経済大臣会合及びG20大阪サミットの成果等を発信。

各パネリストからは、データ流通の促進に向けての議論は、各国、各地域の枠組を超えるとともに、政府間だけでなくマルチステークホルダーでの議論が必要であるとの指摘あり。一方で、多国政府間で議論を行うに当たっては、OECD等の国際機関の活用が重要である旨発言あり。



＜大阪トラック関連セッション模様＞